

(仮訳)

**第1回TICADV閣僚会合（2014年5月4～5日）
全体会合3「ポスト2015年開発アジェンダ」
議長総括**

マジド・アブドゥルアジズ国連事務次長兼事務総長アフリカ特別顧問（UNOSSA）及びアブドゥレイ・マー・ディエイ国連事務次長補兼UNDPアフリカ地域担当総裁補の共同議長の下、ポスト2015年開発アジェンダに関する会合が行われた。会合は、共同議長の基調講演に始まり、続いて、オーガスティン・ンガファンリベリア共和国外務大臣、岸田文雄日本国外務大臣、アンソニー・モタエ・マルピン・アフリカ連合委員会（AUC）経済委員によるパネルディスカッションが行われた。これらのスピーチは議論の基礎を提供した。

共同議長及びパネリストは、アフリカによるいくつかのミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けた実質的な進展を強調するとともに、2015年までに、貧困削減、食料・栄養安全保障及び母子保健において、MDGs達成に向けた進展を一層加速させる必要があることで一致した。

共同議長及びパネリストは、MDGsの成果と経験に基づき、地域レベル及び世界レベルで、ポスト2015年開発アジェンダに関する議論が進展したことを想起した。また、共同議長及びパネリストは、AUが採択したポスト2015年開発アジェンダに対するアフリカ共通ポジション（CAP）を歓迎しつつ、その種の初めての取組として評価し、ポスト2015年開発アジェンダにアフリカの優先事項と関心を確実に反映させる上で、アフリカ、日本及び開発パートナーとの継続的な協働が重要であることを強調した。さらに、アフリカにおける長期的な50カ年改革計画であるアジェンダ2063の策定と実施を支援することの重要性についても強調した。

共同議長とパネリストらによるプレゼンテーションに続き、参加者は多岐にわたる論点について議論を行い、情報を共有し、アフリカにおけるMDGsの達成に向けた歩みを加速させ、ポスト2015年開発アジェンダに対するアフリカの立ち位置と展望を推進し、AUのアジェンダ2063の完成と実施を支援していくための実用的な提案を行った。主要な論点及び結論に至った事項は以下の通り。

- (1) 特に進捗が遅れている、貧困削減、食料・栄養安全保障、母子保健、水と衛生などの分野において、MDGsの達成に向けた取組を加速させることを引き続き最優先事項とすべきである。

加えて、新たな課題として、教育及び保健等における公共サービスの質の向上、食料安全保障、人口変動、環境の持続可能性、気候変動、不正な資金の流れ、採取産業のガバナンスが確認された。これらの課題には、アフリカの構造的な経済変革とともに、南南協力及び三角協力を含むパートナーシップの深化、資金・知識・科学技術の革新的移転、グッドガバナンス、組織能力の向上が必要である。また、横浜行動計画別表は、上記の課題に取り組むための日本とアフリカの共同行動の枠組みを提供するものである。

このような文脈において、ポスト2015年開発アジェンダの指針には、人間の安全保障及び人間中心アプローチが含まれるべきである。

- (2) CAP及びTICADVのビジョンと戦略が強く合致していることが確認され、これは、ポスト2015年の議論に関する共通の立場を推進していくためのアフリカ、日本及び開発パートナー間の連携を進める良い基盤となっている。また、成果重視の取組を強化するため、TICADVと国連などの制度的な監視メカニズムの相補性を活用すべきである。

- (3) アフリカ及びTICADパートナーは、構造的な経済変革、包括的成長、人間中心の開発、持続可能性及び強靱性の概念に基づき、多くの開発上の重要課題を共有している。アフリカが変革的であるアジェンダ2063を進展させるにあたり、TICADは、アフリカの長期的な開発への希求と一致して、ポスト2015年開発アジェンダのアフリカの実施及びアジェンダ2063の完成と実施に向けたアフリカの取組を支援する最善の方途について検討すべきである。

(了)